

自分で守る 地域で守る



被害を最小限にするのは、住民のみなさんの力です。

災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」が不可欠です。この3つの連携が円滑なほど、被害は軽減できます。

自助

一人ひとりが自分の身の安全を守る

- 非常用持出品・備蓄品の準備
- 避難所・避難経路の確認
- 屋内・屋外の点検・補強
- 自分の判断で避難 など



共助

地域や身近にいる人同士が助け合う

- 自主防災組織による防災の取組 など

減災

公助

国や地方公共団体などの取組み

- 公的機関による救援・救出、復旧活動 など

市役所からの避難情報

令和3年度の災害対策基本法の改正から避難勧告は廃止され、避難指示(警戒レベル4)で必ず全員が避難することになりました。下記の表を参考にいざという時には命を守る行動をとりましょう。

警戒レベル	防災気象情報 (気象庁などが発表)	避難情報等 (市が発令)	住民がとるべき行動
警戒レベル 5 災害発生 又は切迫	氾濫発生情報、 大雨特別警報等	緊急安全確保 ※1	発令を待ってはいけません! 既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動を取りましょう。
警戒レベル4までに必ず避難!			
警戒レベル 4 災害の おそれ高い	氾濫危険情報、 土砂災害警戒情報	避難指示	全員避難! 速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険だと思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。
警戒レベル 3 災害の おそれあり	氾濫警戒情報 大雨・洪水警報	高齢者等避難 ※2	高齢者などは避難開始! 避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
警戒レベル 2	大雨・洪水 注意報		避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル 1	早期注意情報		災害への心構えを高めましょう。

※1 市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

防災情報 まちの

「避難情報発令の判断・伝達マニュアル」は、大雨洪水や土砂災害の発生のおそれがある時に適切な避難指示等を発令するため、避難対象区域の設定や避難情報の発令判断のタイミング、住民のみなさんへの伝達方法を取りまとめたものです。このマニュアルは市のホームページで閲覧できます。

(<http://www.city.furano.hokkaido.jp/docs/2015022200114/>)



自主防災組織を結成し、地域で地域を守る取組を!

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚や連帯感に基づき、災害による被害の予防・軽減のための活動を行う組織です。

平常時の活動例

- 防災知識の普及
- 災害危険箇所の把握
- 防災訓練の実施
- 防災用資機材などの点検 など

災害時の活動例

- 情報収集・伝達
- 初期消火、救出・救護
- 住民の避難誘導
- 生活物資の配給 など

助け合って避難しましょう。

高齢者、障がい者、乳幼児など、災害時に特に配慮を必要とする方を「要配慮者」といいます。

また、要配慮者のうち、災害時に自ら避難することが困難であり、特に支援を必要とする方を「避難行動要支援者」として位置付けています。避難情報発令時には地域ぐるみで助け合い、要配慮者・避難行動要支援者の避難支援をしましょう。

目の不自由な方



安全な場所まで誘導する。

耳の不自由な方



メモなどで正確な情報を伝える。

肢体の不自由な方



介助は2人で行う。声をかけ安心できるようにする。

避難情報の 入手方法

- 広報車・訪問
- テレビ・ラジオ
- 市HP、SNSメール
- 自治会、自主防災組織
- サイレン(60秒)



非常用持出品 必要なものをリュックサックに詰めておき、いつでも持ち出せるようにしましょう。

必需品	懐中電灯	飲料水 (1日1人3ℓ)	非常食	貴重品	救急セット	必要に応じて準備
<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	携帯ラジオ・予備電池	タオル・毛布	衣類・下着類	使い捨てカイロ	携帯電話・モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>						<input type="checkbox"/>

飲料水・非常食については、最低3日分(できれば1週間分)を備えておきましょう。

ペットと一緒に避難する方は...

市では、犬・猫などのペットと一緒に避難所へ避難(同行避難)する場合、ペット専用スペースを指定します。飼い主は、同行避難に備え、日ごろから、ケージ等に慣らしておく、むやみに吠えないようにするなどのしつけや、リード、ケージ、ペット用の食料・トイレ用品など、非常用持ち出し品の準備を心がけましょう。



防災情報 まちの

富良野市では避難所を下記の4つに区分しています。

- 1 広域避難場所:公園・公共施設のグラウンド等
- 2 指定一般避難所:被災者が一定期間避難生活を送れる規模の学校等の施設
- 3 指定緊急避難場所:一時的に身を守るための施設
- 4 指定福祉避難所:高齢者や障がいのある人等のための避難所

風水害

風水害には台風・豪雨・土砂災害などがあります。これらの災害は、事前に予測できる場合があるため、普段から備えておくことが大切です。



周囲の変化をとらえましょう

天候の変化 状況の変化 (土砂災害の前兆)



真っ黒い雲の接近、雷の音、冷風などがサイン。
山鳴りや「ドーン」という音。
崖面から小石が落ちる。
地面にひび割れが起きる。がする。川の水が急に減る。裂け目から水が湧き出す。陥没や隆起が起きる。



警報・注意報の内容を知りましょう



風水害の危険を知りましょう

大雨

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10~20mm	1時間に20~30mm	1時間に30~50mm	1時間に50~80mm	1時間に80mm以上
長く続くときには注意。	下水や小さな川が溢れる。	山が崩れが起きやすい。	水が噴出したり土流が起こりやすくなる。	大規模災害のおそれがある。

強風

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10~15 m/秒	15~20 m/秒	20~25 m/秒 25~30 m/秒	30~ m/秒
風に向かって歩かなくなり、傘がさせない。	転倒する人も出る。屋根葺材がはかれる。	つかまらないと立ってられない。	屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。

洪水の種類

氾濫には川の水などがあふれてしまう「外水氾濫」と、降った雨を排水しきれず街中にあふれてしまう「内水氾濫」の2種類があります。

土砂災害の特徴

<p>土石流 斜面に貯まった土砂などが、雨水と一緒に流れ出す。</p>	<p>がけ崩れ 地面に浸み込んだ水分により、斜面が崩れ落ちる。</p>	<p>地すべり 地中の滑りやすい層がゆっくり動き出す。</p>
--	--	--



雨・風の対策をしましょう

<p>点検・補強 屋根、塀などの点検・補強をする。</p>	<p>側溝の掃除 ゴミや土砂を取り、排水しやすくする。</p>	<p>室内に収納 風で飛ばされそうなものは室内へ。</p>	<p>ガラスの飛散防止 窓が割れないようにフィルムを貼る。</p>
--	--	--	--

避難するときの注意点

- 警報などが発表されなくても、危険を感じたら早めに避難する。
- 避難は複数人で、基本は徒歩で行う。
- 浸水している場所は、棒で確認しながら側溝や水路に注意する。
- 子どもはロープなどでつなぎ、はくれないようにする。
- 警報や注意報が解除されるまで、警戒を続ける。
- 長靴での避難は避け、履きなれた靴で行う。
- 浸水の状況によっては、頑丈な建物の2階以上へ避難する。
- 水害時に浸水想定区域内の避難所に避難する場合は、建物の2階以上に避難をし、1階を使用しないこと。
- アンダーパスは、急激に水が流れ込んだり、増水したりして危険。安全に避難できる経路を確認する。



富良野市では、洪水の危険性を実感できるよう、まちをまるごとハザードマップと見たと、「まちなか」に洪水関連標識を設置しています(対象河川:空知川)。なお、本防災ガイドマップにおいて、避難所などは国土交通省国土地理院のマークで表示しています。



洪水時の避難先となる安全な建物を示すマークです。
洪水の影響を受ける可能性があることを示すマークです。



富良野市には、空知川、富良野川、ベベルイ川、ヌッカクシ富良野川、西達布川など、大雨が降った場合に浸水が起こる恐れのある川が複数あり、毎年のように大雨や台風などによる被害が発生しています。2016年には、一週間に3度の台風上陸や台風10号接近による大雨の影響で市内の河川が増水し、各地で避難情報を発令しました。9ページからのマップを見て、自分の地域の危険を確認しておきましょう。



2016年8月台風9号

地震

地震はいつ起こるかわかりません。まずは、地震の特徴を知り、いざという時に備えましょう。



緊急地震速報・地震発生時は身の安全の確保を!

- 家では丈夫な机の下など、安全な場所に避難する。
- 施設内では係員の指示に従う。あわてて出口に走らない。
- 外にいるときはブロック塀の倒壊、看板やガラスの落下に注意。
- 運転中はハザードランプを点灯し緩やかに速度を落とす。道路の左側に停止し、エンジンを切る。



地震発生後は、周囲の安全確保を!

- スリッパなどはき、転倒した家具やガラスの破片などに気を付ける。
- 揺れが収まったら火の始末をする。
- 窓や戸を開け、出口を確認する。
- テレビ、ラジオ、市役所などの情報から正しく状況を把握する。
- 危険が迫っていると判断した場合は、ガスの元栓を閉め、ブレーカーを切るなどしてから避難する。
- 自宅の安全を確認後、近所にも声をかけて安否を確認する。
- 避難は徒歩で行い、持ち物は背負える範囲にする。



知る 大きな揺れに注意しましょう

緊急地震速報(予報)		緊急地震速報(警報)		緊急地震速報(特別警報)		
震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半が揺れに気付く。	大半が揺れに驚く。	物につかまりたいと感じる。	行動に支障が出る。	立っているのが困難。	はわないと動けない。	揺れにほんろうされる。

備える 家の安全を見直しましょう!

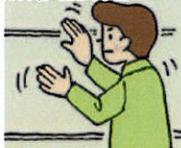
地震による負傷は、約3~5割が家具の転倒・落下によるものです。事前に対策をし、屋内の安全を確保しましょう。

家の耐震化



耐震診断を受け、必要に応じて補強。

壁や塀の点検強化



壁や塀にひび割れなどないか。

家具配置の見直し



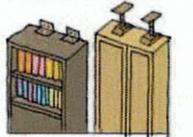
家具が倒れても安全な配置になっているか。

避難経路の確保



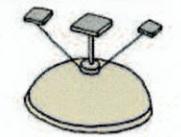
出入口は物で通りになっていないか。

家具の固定



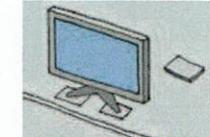
L字金具などで柱に固定。

照明の固定



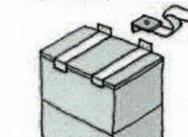
補助ひもで天井に固定。

テレビの固定



粘着マットで固定。

冷蔵庫の固定



転倒防止ベルトで固定。

Topics 富良野市の地震の危険

右のマップ(揺れやすさマップ)は、富良野市に大きな影響を及ぼすと考えられる富良野断層帯西部の活断層による地震を想定し、250mメッシュの震度分布を表示したものです。この活断層による地震が発生した場合、最大で震度7の地震が想定され、市全域で建物の全壊は、約869棟、半壊は約1343棟、冬場の早朝の場合の死者数は約22人、負傷者は約325人と推定されます。

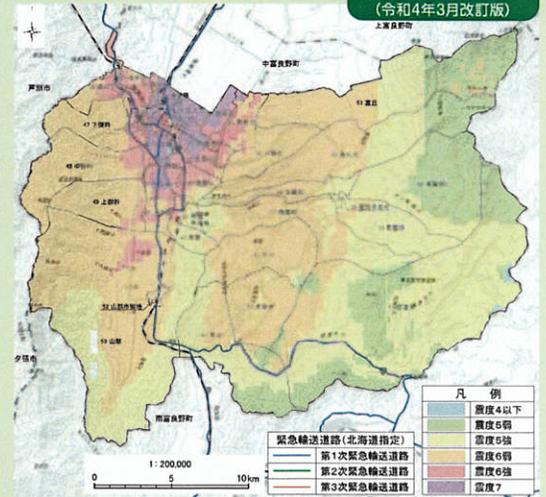


詳しくは市ホームページをご確認ください。

富良野市揺れやすさマップ

検索

揺れやすさマップ (令和4年3月改訂版)



防災情報 うちの

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。その短い間に身を守るための行動を取りましょう。

防災情報 うちの

地震発生時には電話の回線使用が急増し、119番等の緊急電話使用に支障が出る場合があります。不要不急の電話の使用は控え、安否確認等はできるだけ災害伝言ダイヤル(☎171)を使用しましょう。(表紙裏面に使い方を掲載しています。) また、地震発生直後など情報が不足しているときは、誤った情報が広がりやすくなります。受け取った情報の根拠を確かめ、惑わされないよう注意しましょう。

雪害・噴火

富良野市では暴風雪や噴火の被害が発生する可能性もあります。



雪害に注意！暴風雪に備える

- 気象情報に注意し、暴風雪が予想されるときは外出しない。
- 停電に備え、懐中電灯、ラジオ、防寒具、ポータブルストーブ、灯油、非常食、飲料水などを準備する。
- やむを得ず車で外出する際は、防寒具、スコップ、牽引ロープなどを準備し、十分に燃料を確保する。
- 給排気口付近が雪でふさがれないように注意する。



安全な除雪

- 家族や隣近所にも声をかけ、2人以上で作業する。
- 命綱やヘルメット、滑りにくい靴を着用し、携帯電話を持つ。
- 雪下ろしをする際は、建物のまわりに雪を残し、万一の転落に備える。



噴火に注意！十勝岳の噴火の危険を知る

- 1900年代にも3回噴火が発生しています。
- 過去に起きた十勝岳の最大規模の噴火を想定した場合、富良野市にも積雪期に融雪型泥流※や火山灰の被害が発生する可能性があります。

※火砕流などの熱によって大量の雪解け水が発生し、土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象



十勝岳の噴火警戒レベルと対応

警報・予報	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	対応
特別警報	噴火警報(居住地域) 又は 噴火警報	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状況にある。	住民などの行動 危険な居住地域からの避難などが必要である。
	又は 噴火警報	4 高齢者避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。(可能性が高まってきている)	住民などの行動 警戒が必要な居住地域での要配慮者の避難、住民の避難準備などが必要である。
警報	噴火警報(火口周辺) 又は 火口周辺警報	3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予測される。	住民などの行動 登山者・入山者への対応 居住は通常の生活(今後の火山活動の発展に注意)状況に応じて要配慮者の避難準備などを行う。
	火口内等	2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予測される。	登山者・入山者への対応 火口周辺への立入規制などを行う。
予報	噴火予報	1 活火山であることに留意	噴火活動は静穏。噴火活動の状況によって、火口内での火山灰の噴出などが見られる。(この範囲に入った場合には生命の危険が及ぶ)	登山者・入山者への対応 特になし。

防災情報 まのちの

停電は地震・暴風・風水害・大雪・落雷などで起きることがあります。2018年の北海道胆振東部地震の際には、苫東火力発電所が緊急停止するなどした影響で、全道全域の約295万戸が停電しました。停電発生に備え、懐中電灯やラジオなど、非常用持出品の置き場所を決めておくとともに、冬場に備え、防寒具やポータブルストーブ(電池式)などの寒さ対策も行いましょう。

Topics

いざという時のために 命を守るための避難行動を考えましょう

＝避難する場合のポイント

危険な状況の中での避難行動はできるだけ避け、安全確保を第一に考えることが大切です。指定された避難所等への避難だけでなく、安全であれば、自宅の安全な場所や知友人宅への避難なども検討しましょう。

- 普段から災害が起こった場合にどこに避難するか決めておく。
- 富良野市が指定した避難所等以外への避難も検討する。(市が指定する避難所等は、プライバシーが十分でなく、ストレスや疲労から体調を崩してしまうこともあるため、可能であれば自宅の安全な場所や親戚・知友人宅への避難を検討する。)
- 万が一逃げ遅れた場合は、水害や土砂災害の危険がある場合は、自宅の中でより安全な場所(2階など)や、近くの丈夫な建物の少しでも上の階へ避難する。



＝避難所生活での心得

避難所では、避難者同士が共同生活を送ることになります。ルールとマナーを守り、みんなで支え合いながら避難所生活を送ることが大切です。

- 身体の不自由な方や乳幼児のいる家族などへの配慮を心掛ける。
- エコノミークラス症候群を予防するため、こまめに体を動かし、十分な水分補給を行うことを心掛ける。
- 感染症予防対策をしっかりと行い、生活環境を衛生的にする。



＝感染症流行下での避難について

感染者数が増加する中で災害にあった場合、避難所を利用するべきなのか被災のリスクと感染のリスクとを天秤にかけ、判断をすることが重要です。安全が確保できるのなら避難所ではなく、自宅の安全な場所や親戚・知友人宅への避難も検討しましょう。

- マスク・消毒液・体温計が不足している可能性があるため、自ら携行する。
- マスク着用、こまめな手洗い、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底する。
- 避難所では換気を心がけ、可能な限り、密閉・密集・密接の「3密」を避ける。
- 健康状態(体温など)を毎日確認する。



防災情報 まのちの

大規模災害などで、市による避難所運営が困難な場合や避難所開設後、状況が落ち着いてきた場合には、避難者(住民)が主体となり、避難所運営を行うこととなります。富良野市では、昨今の感染症対策を踏まえた「富良野市避難所運営マニュアル」を改定しました。このマニュアルは市のホームページで閲覧できます。
(<https://www.city.furano.hokkaido.jp/life/docs/2015022200138.html>)

